

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進	学校整理番号 7	学校名 青森県立弘前高等学校
(2) 現状と課題	「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、智・徳・体の調和がとれ、単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。一方、受け身の生徒も増えつつあるため、主体的に学ぶ生徒を育てる体制を引き続き整えていく必要がある。また、新学習指導要領やGIGAスクール構想、働き方改革など学校教育を取り巻く新しい動きに対応するため、校内の新たな体制作りを行うとともに研究に鋭意取り組んでいる。	自己評価実施日 令和6年2月1日(木)	学校関係者評価実施日 令和6年2月22日(木)
(3) 重点目標	1 授業第一主義の徹底とICTの活用 2 豊かな人間性と社会性の育成 3 キャリア教育の推進 4 コミュニティ・スクール導入による「社会に開かれた教育課程」の実践	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学校評価のための職員による「自己評価」の結果を掲載する。	学校運営協議会 委員7名	

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	授業第一主義の徹底とICTの活用(学習指導)	ア 学習習慣の確立により基礎基本を定着させた上で、ICTを活用して「個別最適な学び」を推進する。 イ 絶えざる研修と教材研究により「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践に取り組み、論理的思考力・応用力を育成する。	生徒に授業を完全に理解させ、自学の姿勢を育てるため、教科担任による指導の工夫と働きかけ、ホームルーム担任による個人面談を行った。また、一人一台端末を活用した指導の研究と実践を重ねて生徒の「個別最適な学び」を推進した。研究授業、互見授業、研修、重点校事業への参加を通して教員の授業力向上にも取り組み、生徒の論理的思考力・応用力の育成を図った。	B	熱心な学習指導のおかげで、生徒の学力定着が図られている。ただし、大学入試の時期には、生徒や家庭とコミュニケーションを図りながら、生徒一人一人の志望先やペースに合わせた学習指導を行う必要がある。また、学習習慣は小学校で身に付けるべきものであるから、具体的方策にある「学習指導の確立」という文言を残すかどうかについては、今後の検討が必要である。	授業へのICT導入については個々の教員の努力により一定の成果があったが、まだ授業で活用しきれていない教員が一部いる。次年度はICTを用いた効果的で個別最適な学習をより一層推進し、ICTの活用を苦手とする教員を支援するために、タブレット端末の利用方法についての研修を実施する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現させるためには、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善がさらに必要である。
2	豊かな人間性と社会性の育成(生徒指導)	ア 探究的な学習、体験活動及び部活動等における多様な他者との「協働的な学び」を充実させ、逞しい心と体そして自主独立の精神を培う。 イ 災害、事件、事故、感染症等に際し、自分自身を守る能力と他者の生命・安全を尊重する態度を育成し、学校安全を推進する。	総合的な探究の時間における課題や重点事業「あおり創造学」プロジェクトへの取組、さらに弘高ねぶた運行、弘高祭開催、修学旅行、部活動等「協働的な学び」の機会を可能な限り設定して生徒の心身の育成に取り組んだ。また、感染症拡大防止の取組により、他者及び自身の健康・安全を守る意識、能力が育成された。	A	学外の活動や部活動においても、顕著な成績を収めている生徒もいるので、評価はAでよい。ただし、勉強以外でも目立った活動をしている生徒もいる一方で、学校生活に付いて行けない生徒や、学校と家、塾の行き来だけに終始している行動範囲の非常に限られている生徒もいるため、さまざまな経験を通して豊かな人間性を育成するための手立てが必要である。	部活動指導員など外部指導者による部活動指導の拡大や、弘高ねぶたの安全な運行等のために、保護者及び地域の方々の協力を得て、多様な他者との「協働的な学び」をさらに充実させ、生徒の健全な心身の育成に取り組んでいく。また、今年1月に発生した大地震を教訓とし、災害発生時には、自身を守るための確かな意志決定や行動選択ができるよう、避難訓練等の安全教育の在り方をさらに見直していく。
3	キャリア教育の推進(進路指導)	自分の能力と資質を生かせる大学学部研究して主体的に進路を選択し、その実現に向けて、セルフ・リーダーシップにより自らを導く能力と態度を育成する。	総合的な探究の時間における課題研究や職業人講話、出前講義等において、自己の適性と将来の進路について深く考える機会を設けることで、生徒は自ら設定した課題に主体的に取り組む、自らの進路を自分で決め、その実現に向かう能力を育んだ。	B	「自分の進路を自分で決める」という点が、弘前高校らしく、中学校の進路指導と異なる点であり、自分の進路を切り拓く力を身に付けることで、弘高生は急激に成長を遂げると感じている。今後の指導としては、大学進学指導に偏ることなく、人生の在り方を主眼にした本来のキャリア教育を推進し、広い視野で世の中を見る生徒を育成してほしい。	多様化する入試に対応するため最新の入試情報収集と選元に努め、生徒の進路志望・主体性を尊重した進学指導は今後も継続していく。ただし、総合的な探究の時間においては、生徒自身が主体的に自身の進路実現に向かって諸課題を乗り越えていく能力を培うために、教師からの問いかけや助言を効果的に行い、探究テーマと志望学部との関連性をより深くさせるなど指導方法を改善する必要がある。
4	コミュニティ・スクール導入による「社会に開かれた教育課程」の実践	特命担当分掌を編成して、「弘高ねぶた」の持続的な体制づくり、「探究」指導体制の確立、部活動改革の方向性と在り方などについて「学校運営協議会」で審議検討し、「社会に開かれた教育課程」を実践する。	コミュニティスクール特命担当分掌が編成され、7名の委員から組織される学校運営協議会において、学校運営に関する意見をいただいた。第3回の学校運営協議会においては、オブザーバーとして生徒会自治会執行委員長が参加し、より広い視点からの熟議が行われた。	A	本校の学校運営協議会は、校長が先頭立って「社会に開かれた教育課程」を実践している良い例なので、是非継続してほしい。今後は、委員の人数が難しいかもしれないが、弘前高校のOBだけでなく、客観的に弘前高校を眺め、批判的な意見を述べられる委員も選定すべきである。	今年度は、「弘高ねぶた」の持続的な体制づくり等について充実した協議を行うことができたが、今後は学校運営協議会における協議内容や決定事項、取組の成果を学校ホームページなどを活用して情報発信をすることにより、保護者や地域住民等への理解促進にさらにつなげていき、「社会に開かれた教育課程」を実現する。また、来年度は海外研修プログラムや部活動改革について協議して行く予定である。
(11) 総括	学校教育を取り巻く新たな状況に対応しながら、学校教育目標達成のための重点目標に沿った教育活動を計画的に実践し、本校が担う使命と役割を果たすことができた。次年度以降も「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す」主体的に学ぶ生徒を育成するため、教員の指導力向上、教育環境の充実、地域や家庭、諸関係機関との連携を一層充実させ、これまで以上に学校が組織として機能する体制を整えていく。今年度の評価結果を踏まえた具体的な改善に取り組み、重点目標の達成を図りたい。					